

第2期中期目標期間  
(平成22～27年度)  
自己点検・評価報告書

平成28年3月  
リベラルアーツセンター

# 目 次

- I 中期目標期間の実績概要
- II 特記事項
- III 次期中期目標期間に向けた課題等
- IV 中期目標・中期計画ごとの自己点検・評価

# I 中期目標期間の実績概要

## 1. 組織の特徴

学部教育の文系全学科目の提供を行うとともに、21世紀の大学教育におけるリベラルアーツの理念を追い求め、これを実現するための先進的な取り組みを行うことを目的として、平成23年1月に設立された。

本学の学生は、理工系分野の高い資質をもちつつ、現代社会の諸問題に正面から立ち向かうことのできるリーダーとなることが期待されている。リベラルアーツセンターは、そのような東工大生の「人間としての根っこを太くする」教育を担うことを使命にかかげ、一人ひとりの人間性を高め、また堅固な社会性を培うための教育の実践と研究を進めている。

## 2. 実績の概要

「人間としての根っこを太くする」教育をめざし、さまざまな先進的な試みを行った。

テーマや形式がこれまでにない新しいタイプの科目を開講し、また講演会の実施等によって積極的な広報活動を行った。また、学生が自ら立案・実施する「学生プロジェクト」の機会を設け、授業外でも学生がリベラルアーツにふれ、人間性・社会性を磨く機会を提供した。さらには、海外の大学におけるリベラルアーツ教育の視察を行い、リベラルアーツ教育の世界的な動向のなかで、本学にふさわしいリベラルアーツのあり方を発信しつづけた。

## II 特記事項

### 1. 優れた点

#### (1) リベラルアーツの重要性をアピールする広報活動

さまざまなテーマを設定した講演会を計10回（平成24年度1回、25年度2回、26年度2回、27年度5回）開催し、リベラルアーツセンターの認知度を高めるとともに、多様な視点からリベラルアーツの重要性について学内・学外に向けて発信を行った。その他にも、新聞やウェブマガジンなどを活用して積極的に広報活動を行った（資料1）。

#### (資料1) リベラルアーツに関する広報活動実績

実施年月	イベント名称	登壇者	成果概要
24年 5月	リベラルアーツセンター設置 記念講演会	桑子センター長 池上教授 上田教授	リベラルアーツセンターの設置を大学の内外にアピールした。500名強の応募者から抽選で209名が来場。ニコニコ生放送閲覧者数25,383名、コメント数：10,520件。
25年 5月	自由について～アートから考える	伊藤准教授 柳沢田実氏 高橋瑞木氏	女性3名をパネリストとするシンポジウムを開催し、100名程度の来場者があった。
26年 1月	今こそ！リベラルアーツ	桑子センター長 池上教授 上田教授 伊藤准教授 遠山敦子氏	元文部科学大臣の遠山氏を招き、大学におけるリベラルアーツ教育の重要性について、広い視点から議論を深めた。
27年 1月	生まれ変わる学び、生まれ変わるチーズケーキ：今年を読もう！新聞を読もう！	池上教授	アクティブラーニングスペースが新設された図書館にて、新聞を読み比べる新春イベントを開催した。
1月	テクノロジー×アート～問題提起型のモノづくり	伊藤准教授 真鍋大度氏	エンジニアでありアーティストである真鍋氏を招き、パフォーマンスを交えたイベントとなった。
27年 10月	人生が変わる極上笑顔の法則	浅井千華子氏	秋の講演会シリーズと銘打って外部から講師を招き、学生向けのイベントを開催した。
11月	心に届く声の響かせ方	齊藤直江氏	
11月	東工大生のための恋愛学入門～恋愛を科学する～	森川友義氏	
28年 1月	私の考える小説とは	磯崎憲一郎教授	新たに着任し、今後リベラルアーツ教育を担う2名の教授の講演会を開催した。
1月	ワークショップ～本当にやりたいことは？～	中野民夫教授	

出典：センター作成資料

#### (2) 個性的な授業の提供

「ネットジャーナリズム論」「コミュニケーションと国際関係」「ファッションデザイン概論」など、これまで本学の文系科目にはなかった新しいテーマやスキルを扱う授業を開講した。また、学生が自らデザインした授業「問題解決のための思考法実践」も開講した。

(資料2) 非常勤講師による新設科目一覧

年度	科目名	担当講師
24年度	ネットジャーナリズム論	津田大介
	コミュニケーションと国際関係	パトリック・ハーラン
	ファッションデザイン概論	高村是州
25年度	問題解決のための思考法実践	宇野健司, 佐藤清一郎
	映像文化に学ぶジェンダー論	鷺谷花
27年度	生涯を賭けるテーマをいかに選ぶか	最相葉月
	コミュニケーションの基本	パトリック・ハーラン
	コミュニケーションの実践	パトリック・ハーラン

出典：センター作成資料

## 2. 特色ある点

### (1) 学生プロジェクト

学生が自主的に企画を立案し、実行する「学生プロジェクト」のサポートを行った。4年間の間に、「理系女子応援プロジェクト」「東工大グッズ開発プロジェクト」など計14のプロジェクト（平成24年度7つ、25年度3つ、26年度3つ、27年度1つ）が立ち上がり、修了した。学生の自主性を高めるユニークな活動であり、また学生の意見を教育にフィードバックするためのパイプとしても機能した。

(資料3) 学生プロジェクト一覧

	プロジェクト (PJ) 名	目標	活動内容
<b>【24年度】</b>			
1	センター設置記念講演会 PJ	リベラルアーツセンター設置記念講演会の運営サポートを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会の運営サポート</li> <li>・これをきっかけとして、学生プロジェクトが発足した。</li> </ul>
2	理系女子応援 PJ	<p>理系女子学生の多くが抱いている将来への不安を払拭するためにも、学生のうちから「理系女性だからこそ出来ることの可能性」や「今、身につけておくべき素養」について学び、議論する場を設ける。</p> <p>理系の女性が活躍しやすい社会のあり方とは何か、それに関わる男性の意見も取り入れながら、考えていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタディーツアー（山口しのぶ：本学教授，萩原貴子他：ソニー，菘田裕美：資生堂，片瀬京子：ライター，山根小雪：日経 BP）</li> <li>・講演会（2/16開催）</li> <li>・刊行物「RIKEJO 8」作成</li> </ul>

3	未来型教養デザインPJ	「私たち学生と中堅世代の社会人と一緒に、未来を幸せに生きていくのに必要な教養を身につける」方法を明らかにする。具体的には、ノマドワーカー・経営者・研究者・お笑い芸人などと、インタビュー・ディスカッションを行い、それぞれの会で得られたものを書面にまとめ大学生・社会人に対して発信する。それを通じて得られたことをもとに、東工大のめざすべき教養教育についての提言をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有識者を招いてのディスカッション（パトリック・ハーラン：本学非常勤講師，安藤美冬：株式会社スプリー代表）</li> <li>・有識者訪問（魚谷雅彦：日本コカコーラ前代表）</li> <li>・OB・OGとのディスカッション</li> </ul>
4	リベラルアーツセンター情報発信PJ	リベラルアーツセンターの活動を広く知ってもらうという理念のもと、プロジェクトの射程の3つの活動の範囲において、情報発信と情報管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東工大生協にセンター推薦図書コーナー設置（大岡山，すずかけ台）</li> <li>・センターTwitterの作成</li> <li>・センターFacebookの作成</li> </ul>
5	読書会PJ	リベラルアーツセンターの推薦書籍を読み、教員と学生を交えて読書会を行うことで交流を図る。同時に、本を多様な視点から読み解き・深く議論し・教養について考える機会を提供する。11月15日から5月31日までの間に読書会を2回（2冊の本について）行い、リベラルアーツ教育の発展に貢献する形で、成果を報告書として作成する。また、情報発信プロジェクトが行ってきた「センター所属の先生に書籍の推薦を頂き生協に設置する活動（生協書籍設置活動）」を引き継ぐ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回読書会（高村是州本学非常勤講師）</li> <li>・第2回読書会（池上彰教授）</li> </ul>
6	すずかけ台講演会運営PJ	2013年4月15日（月）にすずかけ台キャンパスにて、池上彰教授とパッケン本学非常勤講師が学問について対談し、学生＋教員2名によるディスカッション行う講演会を実施する。実施にあたり、対談・ディスカッションテーマを決める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すずかけ台キャンパスにて、池上彰教授とパッケン本学非常勤講師による対談「「伝える」とは？」を企画・運営</li> </ul>
7	東工大生が社会とのつながりを見いだす窓の配置マッ	東工大生と外の世界をつなぐ架け橋を作る。東工大にある、大学の外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵前経営者懇話会メンバーを交えてのディスカッション</li> </ul>

	プ作り（仮）PJ	の世界に関わる知られていないチャンスを探して表現していく。	ョン ・東工大と社会をつなぐ団体マップの作成
<b>【25年度】</b>			
8	科目設計PJ	大和総研と連携し2013年後学期にリベラルアーツセンター（CLA）開講科目として学部生向けに新たな講義を設ける。	大和総研との連携により、学生主体で科目設計をおこなった。本年度後期より「問題解決のための思考法実践」を開講した。
9	工大祭PJ	「将来設計」という壮大なテーマに対して池上教授に講演をしてもらい、中高生にとって身近な受験勉強から紐解き、将来設計のための強力なヒントを提供する。	10月13日に、中高生を主な対象とした将来設計についての講演会を企画・運営した。事前に高校生に勉強についての意識調査を行い、その結果をもとに、池上教授とプロジェクトメンバーの学生たちがディスカッションを行った。講堂にて開催、当日は満員御礼。
10	リベラルアーツカフェPJ	大目標：今まで関わりのなかった人たちを博物館を舞台に「巻き込み」、交流をつくること、またそれにより博物館、リベラルアーツセンター、ひいては東工大の知名度を上げること。 具体的な目標：11月の2週間で、ブックカフェを開催する。11月に行った成果を12月にリベラルアーツ教育の発展に貢献する形で報告書を作成する。	・11月19～29日に、博物館、附属図書館、生活協同組合の協力のもと、百年記念館においてブックカフェを開催した。400冊ほどの本を陳列し、新しいお弁当を開発、また期間中に10ほどのイベントを行った。のべ1,500名ほどの来場があった。 ・人と考えを繋ぐ場の創造プロジェクト： 毎回異なるテーマのもとで定期的にサロンを開催し、異分野の学生どうしが交流する機会を提供した。
<b>【26年度】</b>			
11	初夏の読書会PJ	リベラルアーツセンターの推薦書籍を読み、池上教授と学生を交えて読書	池上教授とともに「申し訳ない、御社をつぶしたのは

		会を行うことで交流を図る。同時に、本を多様な視点から読み解き・深く議論し・教養について考える機会を提供する。	私です。」(大和書房)を読み、ディベートをする会を開催した。高校生から社会人まで12名が参加。
12	東工大グッズ開発PJ	学生によるオリジナリティを追求した東工大グッズ製作を通して東工大生らしさとは何かを考え、学生の創造活動の活性化と学校の知名度向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内でのグッズアイデアの公募</li> <li>・選定とブラッシュアップ</li> <li>・製品化に向けてのメーカーとの交渉</li> <li>・生協の協力のもと、工大祭で販売(2,000円, 500個作製)。2日で作製個数の約半分が売れた。</li> </ul>
13	人・生き方を考えるPJ	関心の薄かった分野、話題に対する他人の考えに参加者が刺激を受け、新しいことに興味を持ってもらうことを目的とする気軽な場の創造。	月に1度のペースで、あらかじめ決めたテーマについて話すサロンを開催した。
<b>【27年度】</b>			
14	医療系学生ネットワーク構築PJ	勉強会や医療現場見学を企画することで、東工大生が現場の方々から医療を学ぶことができる場を提供し、また東工大の医療系学生の結びつきを強くする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療チーム「コミュニティヘルス勉強会」(秋山美紀先生：慶應大学)</li> <li>・機械チーム「人工心臓勉強会」(進士 忠彦先生：本学)</li> <li>・臨床チーム「県立静岡がんセンター見学会」</li> <li>・全チーム成果報告交流会を開催</li> </ul>

出典：センター作成資料

## (2) 国内外のリベラルアーツ教育の調査

3回の海外視察を行い、計10大学（マサチューセッツ工科大学、ハーバード大学、ウェルズリーカレッジ、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学、インペリアル・カレッジ・ロンドン、UCバークレー、カリフォルニア工科大学、ポモナカレッジ、ハーベイマッドカレッジ）のリベラルアーツ教育のあり方を調査し、その成果を報告書にまとめて公表するとともに、学内にて報告会を開催した。

帰国後に行った報告会には、執行部や多くの教職員が参加し、教育改革に向けて本学のリベラルアーツ教育を世界的な視点から見直すうえで、理念的にも実践的にも寄与することができた。また、26年度に行ったUCバークレーのGSI (Graduate Student Instructor) 制度の視察は、翌年3月のリベラルアーツ研究教育院WGによる担当者2名の本学への招聘につながった。

このほか、国内の先進的な取り組みを行っている大学の状況についても調査を行った。

### (資料4) 海外視察先リスト

年度	訪問先	参加教員
24年度	《米国東海岸》 マサチューセッツ工科大学 ハーバード大学 ウェルズリーカレッジ	池上教授 上田教授
25年度	《英国》 オックスフォード大学 ケンブリッジ大学 インペリアル・カレッジ・ロンドン	桑子センター長 池上教授 上田教授 伊藤准教授
26年度	《米国西海岸》 UCバークレー カリフォルニア工科大学 ポモナカレッジ ハーベイマッドカレッジ	池上教授 上田教授 伊藤准教授

出典：センター作成資料

### Ⅲ 次期中期目標期間に向けた課題等

リベラルアーツセンターは平成 28 年 3 月をもって閉所し、28 年 4 月からは新組織「リベラルアーツ研究教育院」へ発展し引き継がれる。このリベラルアーツ研究教育院が、これまでリベラルアーツセンターの蓄積してきたさまざまな知識やノウハウを活用することができるよう、アーカイブの整理や支援体制を整えておく必要がある。

## IV 中期目標・中期計画ごとの自己点検・評価

### 1. 教育に関する目標

#### (1) 教育内容及び教育の成果に関する目標

- 中期計画①「・全学の中期目標に照らして、リベラルアーツセンターの役割を明確にする。
- ・上記役割を踏まえ、センターの体制を整備・充実する。
  - ・全学の文系基礎教育へのセンターにおけるリベラルアーツ教育の位置づけを明確にする。
  - ・センターの掲げるリベラルアーツの理念を明確にする。」

#### <実施内容と達成状況>

まず、リベラルアーツセンターの役割は「学部教育の文系全学科目の提供を行うとともに、21世紀の大学教育におけるリベラルアーツの理念を追い求め、これを実現するための先進的な取り組みを行うこと」と定めた。このことを踏まえ、新規科目の開講や海外の視察などを活動計画に組み込み、それを実行するための体制を整えた。また全学の文系基礎教育に対しては、リベラルアーツの理念を深め、先進的な取り組みを積極的に行う実験を行う場として位置付け、前者は講演会などの広報活動を通して、後者は新規授業の開講を通して実現させた。また、センターのリベラルアーツの理念は、「人間としての根っこを太くする教育」とした。

#### <自己評価判定>

「中期計画を十分に実施している」 (Ⅲ)